# 湘北

発行日　2017年3月1日

第48号

発行者　湘北地区社会福祉協議会
会　長　杉山　茂紀
発行部数　9,000部

広報誌『湘北』は、
毎年10月と3月に発行しています。


～湘北地区の世帯数・人口～

| 地域 | 世帯数 | 人口 |
|---|---|---|
| 鶴が台 | 2,584 (-27) | 4,603 (-109) |
| 香川 | 4,920 (+95) | 11,725 (+51) |
| 松風台 | 663 (+8) | 1,556 (+9) |
| 甘沼 | 2,143 (+9) | 5,207 (-26) |
| みずき | 1,135 (+16) | 3,212 (+23) |
| 湘北地区 | 11,445 (+101) | 26,303 (-52) |
| 茅ヶ崎市 | 104,229 (+1,205) | 241,979 (+715) |

・2017年1月1日現在。( )内は対前年比。
・住民基本台帳ベースの世帯数・人口。
・「鶴が台」は一街区を含む。

「湘北地区社会福祉協議会（湘北地区社協）」は、湘北地区住民の福祉を進める社会福祉団体です。

## 湘北社協が設立三十周年記念を迎えるにあたって

湘北地区社会福祉協議会
会長　杉山　茂紀

湘北社協は、一九八六年に発足して今年度で、満三十年の節目の年を迎えております。

三十年に亘り地域福祉の推進と発展にご尽力いただいた、これまでの会長さんはじめ諸先輩の方々の功績に、深く感謝申し上げます。

さて、三十年の歴史を顧みると七地域社協に二十か所以上のサロンが活動しており、長いサロンで二十年以上の歴史と実績を積み上げております。市内でもサロン活動が活発な地区です。また、現在新しい試みとして、鶴が台団地の名店街の閉店後の時間をお店のご好意により、こども達と高齢者の居場所作りの試みも発足して、昨年十月より月一回のペースで、活動しております。

三十周年記念事業として住民の方々に活用していただける福祉マップを作成して全家庭にお届けいたしますので、ご活用下さい。

現在底知れない「不安」との戦い、（人口減少、少子高齢社会に突入している）現状から、如何に将来に展望を見出すか、高齢者のこと、子育て世代のこと、障害者のこと、貧困、いじめ、災害、どれも我々に関係のないことは一つもありません。「自分のこと」として事に当たることが大切だと思います。

今後三十五周年・五十周年、私達の地域社会が住みよい地域にするためには、差別や偏見をなくし、多様性を尊重し合える地域にすることが大切だと思います。

社会福祉法人
茅ヶ崎市社会福祉協議会
会長　熊澤　克躬

湘北地区社会福祉協議会が設立三十周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

設立以降、ミニデイサロンや地区ボランティアセンター、コーディネーター配置事業、懇談会など、先駆的に地域福祉活動を推進していただき誠にありがとうございました。

より良い地域づくりに向けて市社協も共に歩んでまいりますので、今後も一層のご尽力をお願いするとともに、益々のご活躍を祈念申し上げます。

## 湘北社協三十年のあゆみ

社協（社会福祉協議会）は地域福祉を推進するための組織です。現在では湘北の全ての地域ですべての人々を対象に次のような活動が行われています。

高齢者の参加が多い地域サロンの活動。会費制で独居高齢者などに昼食を提供しつつ茶話会的な性格のミニデイサービス。就学前の子どもを対象とした子育てサロンの活動。地域から選出された社協の評議員を中心に活動する六つの分科会活動。また、安心して暮らせる地域を目指し住民同士助け合う湘北地区ボランティアセンターの生活支援の活動、などです。

これらの活動は人々に支持されて今は定着しています。歴代の会長をはじめ役員や評議員の皆さんの努力もさることながら、湘北地区社協の発足以来、大勢のボランティアが熱心に活動してきた結果なのです。延べ何人の方々が主体的に活動してきたか見当もつきませんが福祉活動に真摯に参加した大勢の人々の熱意のお蔭です。とはいえ今もボランティア活動に参加する人の慢性的不足に悩んでいますが。

福祉活動は「する」ものだと考えるか「してもらう」ものと考えるか、二種類の人がいるように思います。自分では何もしないで「してもらう」のを待つだけの人が多いのも現実です。ボランティア活動をするのは自分の時間を犠牲にするという意味ですから、嫌だと思う人が多いのでしょうか。しかし、主体的に活動することで、心身の健康寿命（介護などに依存しない状態）は延ばせると言われています。他人のためと考えず、自分のために有意義な活動に参加するのはいかがでしょうか。

昭和六十一年、当時市内十一地区のうち湘北地区社協は市内十一番目の地区社協として、他に遅れてスタートしました。基本目標に「老人福祉対策」を掲げ、以来今日まで具体的な活動を着実に積み上げてきています。

湘北地区社協発足当時から社協活動を発信する機関紙「湘北」は発行されていましたし、勉強会としての視察研修および健康講座は当時から実施され、現在まで続いています。また、一人暮らし老人のための「料理教室」も実施していました。

発足六年後（平成三年）から、主として認知症者を預かる、託老の集い「ほのぼのクラブ」が始まりました。

また、同年に食事作り困難者支援として市の「宅配給食」に協力し週2回配達を始めました。当時のこの事業は容器の回収も必要で、対象者宅へ週に4回行くことになり、実質的に安否確認の役割も果たしていました。宅配給食は次第に拡大し、週四回、約百食に拡大した十年後（平成十三年）、民間業者に移行して終了しました。

平成七年には、それまで五年間実施してきた「ほのぼのクラブ」が終了し、代わって自治会単位の地域ミニデイサービスへと移行していき、香川「お楽しみ会」、甘沼「ふれあいの会」、松風台「松の実会」と、充実していきました。

今やサロン活動は地区全体に広がり、お年寄りでも歩いていける近距離に地域サロンはあります。数も市内最大となり利用者も増加しています。

社協の福祉活動にゴールはありませんので新たな福祉のありようを常に検討しています。地区の福祉上の課題を発見し解決方法を考え、実行する狙いで「地域福祉を考える懇談会」が大きな先進的役割を担っています。「まちたんけん」や「まち巡り」「福祉の体験まつり」などを地域の協力で実施し、世代間交流の成果を上げています。

赤ん坊から高齢者まで、障害者も認知症者も誰もが、地域の人々に温かく見守られて生活でき、自分の居場所のある街。そのために誰もがちょっとした役割を担う、そんな場所に住んでみたいと思いませんか。

（澄川　篤）

# 分科会活動のお知らせ

## 十回目を迎えたボランティア入門講座 延べ百六十名が受講

ボランティア入門講座は今回で節目の十回目を迎え十一月四日、十一日、十八日、二十五日の金曜日に四回開催されました。

第一日目は、市社協の横山様のオリエンテーション、「共育ひろば主宰」牧岡英夫先生による「ボランティア活動とは」について明るく楽しく講義をして頂きました。

ボランティア1日目

第二日目は、体験学習で車椅子の操作と移動、茅ヶ崎誘導グループ草笛によるアイマスク誘導体験、白内障用ゴーグルと手足におもりを装着してのインスタントシニア体験でした。

第三日目は地域の施設グループ、包括支援センター「あかね」、「湘北ボランティアセンター」、「香川ふれあいサロン」、「松風台歌の街」の活動の紹介と包括センター「あかね」の皆さんによる認知症の寸劇、「歌の街」では昔懐かしい歌を唄って楽しく終わりました。

第四日目は、牧岡先生のまとめの講座として「ワールドカフェ」和気あいあいと意見を出し合い参加者のボランティアに対する思いを知ることができました。

ワールドカフェ

一回目から十回までの受講者は延べ百六十名で、修了証を受け取られた方は九十一名でした。

ボランティアは人の為でなく自分の為であること、人と人がつながり、みんなの安心につながることです。

ボランティア活動に参加される人が増えることに期待しています。

（於保　剛）

## 健康・福祉講座

平成二十八年十月六日（木）、香川公民館講義室において、湘南藤沢徳洲会病院より理学療法士の小川将司先生を講師にお迎えして、『膝と腰の痛みを改善するためのお話と体操』と題する講座を開催いたしました。

講座の前半では、腰や膝の痛みが発生する原因について解説頂き、それらを予防改善するポイントとして、

①普段おこなっている日常生活の姿勢や動作を見直すこと。

②腰の骨を安定させるために、腹筋や背筋を強化すること。

の二点が挙げられました。

後半では、具体的にベッドからの起き上がり方や、座る姿勢・物の持ち方など日常生活での注意点について、写真を見ながら解説して頂きました。

また、腰や膝のまわりの筋肉を強くするために、室内で簡単にできる体操もいくつか紹介して頂きましたが、いずれも無理をせずにできる範囲で少しずつ継続してゆくことが大切とのお話しでした。

今回の講座には五十二名の方々にご参加頂きました。

次回の健康福祉講座は、左記のように開催予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げております。（中島　正幸）

**平成二十九年三月九日（木）**
**午後一時三十分～二時三十分**
**『体・こころ・脳　元気を呼ぼう**
**脳活トレーニングと健康寿命』**
**香川公民館　講義室**

## 公民館まつり

「行ってみよう、何かがはじまる公民館」をテーマとして、平成二十八年度の香川公民館まつりが、十月二十四日（土）と二十五日（日）の二日間盛大に開催されました。

例年と同じように湘北地区社会福祉協議会は二十四日に、湘北社協の活動啓蒙と地域との交流を図る機会として、公民館まつりに出店しました。

当日は好天に恵まれ、東側奥の公民館寄りの大型テントに陣取った社協ブースには沢山の方々が訪れていました。

社協PRの小冊子は全部配布することが出来、缶ジュース、綿あめなど用意した品物もすべて完売できました。綿あめは杉山会長の陣頭指揮に中学生のボランティアが活躍しました。

沢山の方々にご協力頂き、ありがとうございました。

（浦田　和廣）

公民館まつり

## 地域福祉を考える懇談会

湘北地区の福祉について考える懇談会は、地域の社会福祉に関わる方たちをお呼びして、意見交換会を行っています。

今年は新たな取り組みとして、社会的な弱者や高齢者、さらには福祉事業者やボランティア団体と、地域の若い世代との交流を活発にするためのイベント「福祉の体験まつり」を香川小学校体育館で実施しました。

記念すべき第一回のイベントは平成二十九年二月四日（土）に開催され、地域の大人一〇〇名、子ども九十五名、合計百九十五名のご参加をいただき、快晴の下盛大に行われました。

今回のまつりで体験できる内容は、「点字体験」「福祉用具体験」「座ってバレーボール」「脳活ゲーム」「えんげ食体験」「ジェスチャー体験」「中学生のパラリンピック調べ展示」です。

会場内では子どもさん達がこれら七つの福祉体験ブースを興味津々、楽しみながら学んでいました。

お手伝いして頂いた地域の皆様、ブース出展していただいた各団体様、および事業所様、準備からご協力頂きありがとうございました。（深栖　健男）

第1回 福祉の体験まつり

## ホームページ運営委員会

何かについて知りたい時、まずインターネットで調べることの多い昨今ですが、湘北地区社協では地区内の社会福祉ボランティア活動についてインターネットからも知って頂けるようにと、十年前からホームページ（HP）を公開して来ました。

このHPは「（湘北地区社協の）主な活動」、「地域福祉活動（地区内のサロンやミニデイ活動の紹介）」、「福祉マップ」、「お買い物マップ」、「湘北地区ボランティアセンター」などで構成され、湘北地区社協の情報はいつも最新状態に更新しています。

しかし地域福祉活動に関しては必ずしも最新とは限りませんので、お気づきの場合は、トップページの問い合わせ先にEメールでご連絡ください。

【お知らせ】本年二月二日からHPアドレス（URL）が変わりました。

新しいアドレスを欄外下部に記載しています。

（倉林　民子）

## 湘北地区社会福祉協議会 三十周年記念事業について

この度、二〇〇八年度発行の福祉マップをベースに、『福祉マップ　改訂版二〇一六』を発行することになりました。

A4のカラー8ページの冊子で、保存版として湘北地区全戸に配布します。

発行予定日は、本年三月十五日です。

### 広報分科会

| | |
|---|---|
| 坂巻　龍馬 | （代表・ライトタウン） |
| 湯川　さだ子 | （会計・甘沼） |
| 鈴木　玲子 | （書記・香川） |
| 真下　敏一 | （香川） |
| 井上　幸雄 | （香川） |
| 澄川　篤 | （甘沼） |
| 小林　美咲子 | （松風台） |
| 林　伝雄 | （松風台） |
| 鈴木　健司 | （みずき） |
| 青木　有俱 | （鶴が台） |